

# 新日本建設と幼児教育の使命

—— 民主的性格の基本を擔ふもの ——

倉 橋 惣 三

## ○新日本建設と教育

幼児教育が國の將來への基本であることは、いつでもの眞理である。幼児教育はその使命を擔つて、ひたすら將來の國民を培育するのである。しかも、新日本建設といふ、未曾有の變革と、まつしぐらの躍進との今日において、その擔當する使命は、特に、殊に、大きく又深いものである。この古きわが國が、敢て新の一字を加へ、新日本の確立を目ざす。事素より尋常でなく、途決して容易でない。目標は明かであり、成るべきの姿は必ずしも複雑ではないが、しかし、それは、單なる目標でなく、外觀の姿ではない。實現であり、内實でなければならぬ。さて、その實現が遅滞してはならぬが、内實は外からの装ひや形の上の整へだけで得られるものではない。うはべやつくりものであつてならないのはいふまでもなく、根からのもの、心髓からのものでなくてはならぬ。即ち、新日本の建設の本原が教育にある所以である。世

には、間にあはせの必要もあり、つくりひの忙しさもある。教育の名によつてさへも、それが餘儀なくせられることもある。しかし、教育がその眞の効果において期待せられるところのもの、教育がその獨自の作用として自任するところのことは、心性の底に徹し、生命の奥に發せしめる點にある。これがためには、熱火の鍛えなほしによることもあり、靈感のよびさましによることもある。青年期の教育にその多くの驗現を見る。しかし、底に徹し、奥に發せしめる本義が、幼児期の教育に俟つべきは、理による解明を借りるまでもない、自然の至當である。殊に、新日本の眞構成は、一つに新日本人の眞單價の總和の他にない。新日本の建設は悠長であつてはならぬが、とこまでも眞完成を期しなければならぬ。あはたしい當面の急工事の騒音の間にも、あせる想ひを抑へて靜かにそのもとを育てる幼児教育の分野は、一日も忽がせにされてはならぬ。

## ○民主的性格傾向の基本教養

新教育の業は、國の特定の活動へ向つての、國民生活の動員、そのための統制とは類を異にする。若しそれならば、引つづけるだけでも、抑へつけるだけでも出来ないことはない。また、そうしてしまひなければなるまい。しかし、新教育の業は、もつと根本のところにある。その内容の細目は暫く措くとして、その綜合の代表語として用ゐられてゐる民主國家といふことにしても、國が何をするかといふ前に、どうあるかといふことを本質とする。どうあるかのためには、國民生活をおのづから然かあらしめる國民個々の性格傾向によらなければならぬ。國民の或る目的への總意といふより以上に、自然の總傾向でなければならぬ。何んのために民主的となるとか、必要に率ゐられてその態勢を執るといふのではなく、そうあらざるを得ないおのづからなる傾向でなくてはならぬ。民主政治といふ場合でもそうである。民主社會といふ場合でもそうである。が殊に、民主教育といふ場合、端的にそうである。

民主主義といふ語には、政治性の響が多く伴ふ。一つの主義として立てられたのは政治上のことであり、他の政治主義、従つて他の社會形態に對立した。そのためには、政治的旗幟の社會的楯を以て闘ひ取られもした。今日でも他の政治主義や社會形態の舊く固きに對しては「主義」に對する「主義」の形で對立する。そして、政治組織や社會

形態上の問題として、あげつらはれる。しかし、もともとその出發も究極も、人間性に基くものであり、人間性に歸着するものである。そういふ政治をよしとするのも、人間性のそのありかたを自然ならしめるためである。民主主義の標語たる自由といふのも、人間性の自由である。又、平等といふのも、人間性の平等である。この意味では、眞に人間のことである教育にあつては、何かに對する「民」何かの中の「主」といふ文字よりも、人間であること、人間性を主とすること、——それだからこそ一段とその點を強調する心で、——人本主義とでもいつたら一層すなはでなだらかな氣もする位である。主義といふのは、まだ、こだわりがあるやうだが、教育にも人間そのものよりも他のことを主とする「主義」があつたりするから、念のため、その點をはつきりさせる必要もあらう。又、昔から、人間性を主とするヒューマニズムが、時代々々により、どういふ點での人間性否定に對立するかで、宗教的人道主義、文化的人文主義、哲學的人間主義など、それ／＼の別のあるのに比して、現代のそれが、多分に社會的性質を帯びてゐることは見落してならない必要があらう。

兎に角、觀念としての考へ方や、行動形式の執り方以上にそのもとの奥底の性格傾向を育てることなしに民主教育はあり得ない。こゝに、もともと知識教育、技能教育でなく、更に進んでは、意識性教育でもないといへる幼児教育の、最も大きな、深刻なごいつてもよい役目を輕んぜられないのであ

る。幼児教育の本義が性格教育であり、その中でも、性格傾向の基本教養にこそ、機微の重點が置かれてゐることを知るものは、新日本教育における幼児教育の位置を尊重せざるを得ないのである。

## ○人間的性格傾向

性格の内容にいろいろある。民主日本の性格として、先づ重んぜらるべきは、人間的性格である。人間が人間的性格を持つべきことは論を要せぬとして、その實際は必ずしもそうと限らぬ。或は稀薄であつたり(濃厚に過ぎたり)閉塞的であつたり(露出に過ぎたり)偏したり、歪んだり、時に缺陷したりさへする。その所因を稽へることは別として、その將來は、それ々の意味で寒心を免れない。殊に性格の他の内容と違つて、後年に到つて補ひ正すことが難い。時としては科學的性格に秀で、宗教的性格に深く、藝術的性格に優れて、人間的性格に、多少の變質が混じたりすることもなしとしない。その近因となるものも種々ありとするが、さかのぼれば、幼児期の人間性教育の不足と過誤が、その遠因をなしてゐるのが常である。その過誤の中にも、人間尊重の、自他不均等や全體的麻痺は、到底、民主的生活に適するものではない。民主的生活とは、要するに自己と他人との人間的尊重である。そこに少しの缺陷があつても、眞に民主的であり得ない。幼き暴慢者、幼き卑怯者、それは、民主の子といふを得ないし、恐らく、眞に民主的な國民ともなり難いであらう。

幼児は元來は最も人間的である。その意味で、民主的でもある。それが害されるのは、人間的でない取扱ひや、民主的でない環境による。しかも、純な意味で人間的でなかつたり、完き意味で民主的でなかつたりする點の多い、舊日本の家庭と社會とでは、この弊が稀でない。しかも民主化といひ革新といつても、おとなの舊い性格を新たにすることは急速に出来ない。こゝに今日のわが國の幼児教育の問題があり、深甚な重要さが求められてゐるといへる。それも、たゞ結果の上からの重要だけでなく、その教育的可能からの重視である。本來人間的であり、民主的である幼児期こそ、人間的民主的性格傾向の教育の最好最適期である。然るにそれを等閑にすることの、教育的失態は重大である。

人間性の正しい發展は、社會性と離れない。人間性といふと、自他個々の趣きが深いが、個的生活も社會的生活も、實は同じ人間性の兩面である。兩面といつてもまだ二つに分れて聞えるが、兩面は常に相着し、相持つて離れないものである。別々の二個では決してない。民主日本人の性格として社會的性格が重んぜられるのも、それが、人間的性格と切りはなせないところに、第一の意味があるのである。しかし、生活の動き方として、社會的方面に一つの強調を置くことは民主的生活の一特質である。

幼児の社會性の教養に就ては、幼稚園教育が常に多く主張し來つたところである。園生活の實際が、おのづからその効果を擧げるのも明かなことである。たゞ、社會性の陶冶とい

ひ訓練といふと、おとなの社會の複雑性や集團的組織性に引きつけられて、幼児としての社會性の正しい培育としては過多を整へんとして、却つてもとを失ふ危険が起らないこともなく、性格傾向の基本教育として、検討を要求せられる點があるかも知れないが、社會的性格そのものゝ重要は言ふまでもなぬ。斯くて、新日本人の民主的心性と民主的生活行動との眞の成熟が、將來にうるはしく約束せられるのである。

## ○活動的性格傾向

民主的性格の主内容として、人間性を先づ擧げたが、性格には靜的内容の方面と共に、動的方面の問題がある。活動性性格と非活動性性格との別である。そのいづれを、文化的に貴しとするかは暫く他論に譲るとして、民主主義の社會性の方面からして、活動的性格傾向の重要さは否定せられ得ない。想ふのみでなく語り、考へるのみでなく行ひ、待つのみでなく提進し、従ふのみでなく發動することは、民主的社會生活の要件であり、ひつこみ思索、しりごみ、人まかせ、殊に傍觀的批判や晦迷逃避の生活態度は、民主的社會構成を無氣力ならしめ、陰鬱的ならしめるものとして、最も忌まれる。人間性は時に内省と内藏に深く籠ることもあるが、それが社會生活として實現されるのでなければならぬ現代の民主生活において、發表、實行、協働の活動性は、最も必須の性格傾向とせられる。

幼児の活動性の教養に就ては、その社會性の教養と共に、

幼稚園教育が常に強調し來つたところである。幼稚園教育即活動教育といつてもいい位である。しかも、それは、單に方法原理たるに止つてはならぬ。目的原理として重視せられなければならない。況んや、活動過程活動成果の指導と習練に偏してはならぬ。活動傾向そのものゝ教養として重視せられなければならない。自發自動の尊重といふも、その抑止を戒めるのみでなく、これを促し進めるのでなければならぬ。促し進めるためには、導く前に従ひ、従ふ前にその性格傾向としての眞價を確認共感するのでなければならぬ。それでなければ、目的原理としての尊重は眞に成立されない。活動主義を以て任ずる幼稚園にも之等の點の検討が屢々要求せられるのであるが、しかし、活動的性格傾向の教養の重要そのものは、舊來の單なる個人心理學的自發活動觀とは、更に擴大せられ、生活化せられるのが、現代民主主義幼児教育の本義になつてゐる。自發活動といふことが言はれるが、人間の生活活動は、たゞにその發動にのみ意味があるのではない。自發は素より貴いが、活動の本質は自己が外にあらはれること、といふよりも更に、外にあらはれた自己を見得ることで、そこに、結果に對する責任が、活動の一つの本質的意味にならざるを得ない。自發は發動の側においての貴さであつて、若しそれだけなら、如何に強い自發活動でも、しめくよりのない生活活動に終つて仕舞ふ。始めあつて終りなきは眞の生活活動ではない。勿論、その終結といふことは、幼児の生活として、おとなの場合のように、確固たるものを要求し得な

い。しかし、自ら發したる活動に自ら終結を感ずることは、生活の本質上幼兒と雖も變りはない。活動に終結を感ずるところは即ち責任感である。責任といふ語も、他に對してのものに限らず、自分に對しての意味があり、幼兒の場合、未だ他に對しての責任を多く求むべきでないとして、自分に對しての責任なしに、自分の生活活動はあり得ない。こゝに、活動的性格は、責任的性格の意味を當然帯びる。殊に民主的生活は責任生活であり、活動生活即責任生活といふほどの強い意味において、その民主的性格も考へられなければならぬ。活動的性格が民主教育において尊重せられる一つの意味も、そこにあるといはれるのである。單なる性格内容だけでは、こうした生活を教育することは出來得ない。それは美しい性格であつても、強い(社會生活的に)性格とはならない。強きを缺いでは、民主的性格はない。活動的性格傾向の教育の缺くべからざることも亦、この故にあるのである。

## ○今日における幼兒教育の

### 新使命

日本を新たにすることは、日本人の生活を新たにすることである。新たな生活は、新たな性格なしにあらはれない。性格の完成は、經驗と教養と、更に自覺による。その經驗も教養も年齢と共に重ね又加へられるところに、性格教育の久しい過程がある。又、自覺によつて、性格の確立するところ

に、性格教育の深い機縁がある。しかも、それらの性格教育は性格傾向の正しい置かれ方を以てのみ、その根をもつことが出来る。若し性格教育が、後年の教育のみで容易に可能のものであること、たとへば六十の手習ひの類であるとすれば、性格の傾向づけられる時期である幼兒期の教育が、假りに放置せられても、多く變ふべきでないかも知れぬ。しかし眞の性格教育の順序が、その始めの傾向づけを必要とする限り、幼兒期からの此の速き慮りを缺いでは、後に至つて悔ゆるも亦及ばぬであらう。

線りかへしていふ。民主生活は民主性格によつてのみ眞に行はれる。民主性格はその人間性においても、活動性においても、性格傾向の正しさなしに完成の基を置かれない。性格傾向の教育こそ、幼兒教育の擔當であり任務であり、殊に可能である。その意味で幼兒教育の基礎づけにのみ、眞の新日本は生れる。總てのよきものが、幼兒教育に生れる中にも、日本人一人々々の性格によつてのみ成る民主新日本は、幼兒教育によつてこそ生れる。

われらが、この國家革新と新生の世に、特に、從來以上の新意味を以て、幼兒教育に力をつくさんとする所以もこゝにある。目の前のことに追はれ、急ぎの必要に迫られて、日も夜も足らぬ時ではある。速いさきくの方向づけなど、うつかりすると見落される。あとまわしにされさうでもある。だからこそ愈々重いわれらの使命ではある。